

地域力を高める公民館活性化モデル事業実施報告書

タイトル「由布市自治公民館活性化モデル事業」

公民館名
海老毛公民館

1 公民館の概要

以前は存在していた婦人会・青年会等の自治組織が消滅し、それに伴って地域活動も衰退している。地域住民が集まる交流の機会の創出を検討している。

2 事業概要

(1) 事業のねらい

自助による地域活動の展開と地域の活性化

(2) 具体的な取組

地域内の交流イベントとして卓球やグラウンドゴルフ、スポーツ吹き矢などの幅広い世代が参加できるスポーツイベントを実施する。

3 事業の成果

26世帯81人という人口の少ない地域であるものの、イベントには多くの地区住民が参加してくれた。コロナ禍ということもあり、思うように事業が進められなかったものの、開催したイベントには予想以上の参加があり、楽しく集う機会をつくることにより、地域住民同士のつながりづくりができた。

4 事業の課題

継続した取組にしていくための協力者の確保

5 今後の方向性

年4回の地区内交流イベントを開催し、地域のイベントとして定着させ、参加者を広げていきたい。また、マンネリ化しないように、他地域との交流や他団体との交流など新しい試みも検討していきたい。

地域力を高める公民館活性化モデル事業

第1回 協議 ～海老毛自治公民館～

日時:令和2年12月8日(火)

19:00～

会場:海老毛自治公民館

1. 自己紹介

2. 令和元年度の報告

〈令和元年度 協議実績〉

回	日時	出席者
第1回	8月 9日(金)19:00～	地区5名 岡田教授 市社会教育課 江藤
第2回	10月19日(土)20:00～	地区8名 岡田教授 畑中代表取締役(コンサル) 市社会教育課 江藤・北崎
第3回	11月24日(日)16:00～	地区10名 岡田教授 畑中代表取締役(コンサル) 市社会教育課 江藤・北崎
第4回	1月26日(日)14:00～	地区12名 岡田教授 畑中代表取締役(コンサル) 市社会教育課 江藤・北崎
第5回	3月 8日(日)19:00～(中止) ※コロナの影響により中止 (県公民館連合会より要請)	

協議には、大分大学の岡田正彦教授のほか株式会社ワーキングルームの畑中裕子代表取締役(第2回から出席)がアドバイザーとして出席し助言を行った。

計4回の協議では、地域資源(駅からわりと近く立地がよい、湧水がある、横穴古墳群、公民館前に大きな桜がある・・)や課題(戸数・住民とも少なく、子どもの人数も減少、地区の組織がなくなったり、地域活動の縮小)の洗い出しを行い、その中で、地区住民が集まるイベントや地域外との交流を考えていこうということになった。その足掛かりとして4月に公民館でのお花見会から事業開始をする予定であったが、コロナ禍で自粛となった。

3. 令和2年度の中間報告

〈令和2年度 事業実績〉

内容	日時	出席者
協議	7月30日(木)19:30～	地区役員4名 北崎
卓球大会	10月31日(土)16:00～	地区15名 北崎・後藤
第1回 協議	12月 8日(火)19:00～	地区役員 岡田教授 畑中代表取締役(コンサル) 北崎

〈 協議 〉

モデル事業 2年目に取り組むこととし、実施にあたっては、大分県公民館連合会の「地域力を高める公民館活性化モデル事業」を活用しながら、事業を行う。

☆ 地域課題:住民が集う機会の創出

☆ テーマ :地域活動の活性化

☆ ねらい :自発的な活動と地域共助の促進

住民間交流の機会を設定し、まずは住民が集まる機会を作っていくことで、地域活動の意識づくりに取り組む。

(予算) 県公民館連合会の委託金96,912円(10万円上限)

★市の補助金 50,000円(備品購入費)(新規)

〈 卓球大会 〉

70代から高校生、家族連れなど自治区民15名が参加。

卓球を通じて楽しく交流することができた。



令和2年度 海老毛 第1回 話し合い要旨

日時 令和2年12月8日 18時～
参加者 海老毛地区 役員の方
大分大学高等教育開発センター 教授 岡田正彦 先生
大分県教育庁社会教育課 小長 和宏
由布市教育委員会社会教育課 北崎英梨
ワーキンググループ 畑中裕子



議事録

<昨年度の振り返り> 地域資源の洗い出しを実施



駅に近い
古墳群がある
子どもが減少
集まりも減少



地域の活動があまりできていない
(4月お花見をしよう)

<今年度のこれまでの経過>

7月30日 役員で集まる
協議 → 今年も取り組む

〈テーマ〉

地域活動の活性化

(地域の住民間の交流の機会を設ける)

(今年度)

卓球大会を開催 15人の参加があった。

(感想)

準備が大変 → 参加者の感想を聞きたい

子ども(未就学)～85歳と、幅広い世代の参加がみられた。

ときどき 地区外からとの交流(大分大学の講座を受けている人)

「こんなことしたい」

卓球 スポーツ吹き矢 1回くらいは花見

いろいろな切り口

子どもを中心に人を集める

本年度 → 1月に実施 (3ヶ月おきに)

1月3週目 昼間

17日または24日

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| ①卓球 | ⑤バドミントン |
| ②スポーツ吹き矢 | ⑥カラオケ |
| ③グランドゴルフ | ⑦もちつき |
| ④カードゲーム
(キャット&ドッグコミュニケーションゲーム) | |

九重町事例

中央公民館で、中学生・高校生も参加し、「防災キャンプ」

(年明けに) 小学生に教える → マップ作り

コーディネイトしてくれる人がいるとすぐ打ち解ける

あったかくなってから 大学生と交流

今後は、定期的の実施(3ヶ月おきに)

岡田先生からの助言

この時期なので、「何かをする」という 習慣づけを行い

まずは地域の中でかかると 楽しい というムードづくりが大切

次回の話し合い

1月のイベント後

2月に来年度に向けての

協議

地域力を高める公民館活性化モデル事業

第2回 協議 ～海老毛自治公民館～

日時:令和3年2月24日(水)

19:00～

会場:海老毛自治公民館

1. 令和2年度の報告

〈令和2年度 事業実績〉

内容	日時	出席者
協議	7月30日(木)19:30～	地区役員4名 北崎
卓球大会	10月31日(土)16:00～	地区15名 北崎・後藤
第1回 協議	12月 8日(火)19:00～	地区役員 岡田教授 畑中代表取締役(コンサル) 県社会教育課 小長さん 北崎
スポーツ イベント	2月7日(日)13:30～ ※1月24日(日)から延期	地域の方15名程度 北崎
第2回 協議	2月24日(水)19:00～	地区役員 岡田教授 畑中代表取締役(コンサル) 県社会教育課 小長さん 北崎

☆ 地域課題:住民が集う機会の創出

☆ テーマ :地域活動の活性化

☆ ねらい :自発的な活動と地域共助の促進

住民間交流の機会を設定し、まずは住民が集まる機会を作っていくことで、地域活動の意識づくりに取り組む。

(予算)県公民館連合会の委託金96,912円(10万円上限)

★市の補助金 50,000円(備品購入費)(新規)

< スポーツイベント >

・ターゲットゲーム ・スポーツ吹き矢 ・ソフトワナゲ ・ペタンク ・グラウンドゴルフ
3歳～80代くらいまでの自治区民15名が参加。



2. 今後(来年度)の事業展開について

令和2年度 海老毛 第2回 話し合い要旨

日時 令和3年2月24日 19時～
参加者 海老毛地区 役員の方
大分大学高等教育開発センター 教授 岡田正彦 先生
大分県教育庁社会教育課 小長 和宏
由布市教育委員会社会教育課 北崎英梨
ワーキンググループ 畑中裕子



議事録

1. 1年の活動報告

北崎さんより報告

2. スポーツイベント報告

当初1/24日に実施のはずが延期となり、2/7日に実施

15名参加

ゲームや遊びを行った。→ スポーツ吹き矢

全員でぜんざいを食べる

グランドゴルフの実施

今後の活動として、高齢女性等でお茶飲み会を実施する話もでている。

感触として、「やれば、できる」な、と思った。

- ・食べながら話をしたのがよかった。

3. 定期開催へもっていくためには

定期開催に持って行くための条件 声かけ係
. 準備係

やる気になる要素をいくつか組み合わせることが必要 →
参加者に交流して「楽しかった」という思いをもってもらう

コロナ禍となり、家族単位の生活が大半となり、楽しみがない人が増えているなか、
なんとか来年度は、定期開催を定着させたい。

音頭をとる人がそれぞれの世代にいとよい。

4. 来年度について

3月14日に役員改選がある。

その時に話しをだして、新役員と来年度の進め方を決めていきたい。

来年度も海老毛地区として、由布市モデル事業に応募したい。

公民館行事として、4月、7月、11月、1月の4回の定期開催を定着させたい。

まずは、4月3日に花見を実施する予定。

持ち寄りの食べ物をもってきての開催もよい。

他地区との交流もしてみたい。→由布市自治公民館モデル事業OB会もあつたらよい。
卒業生同士の交流があると、ノウハウや機材の貸し
借りもできる。

【トッピングについて】

同じ内容であると、続かないので、定着させるためには、トッピングも必要
定着させるための下地づくり

(案)

- ・大学生や中高生のボランティアの人を呼んで、新しい風をいれる。
- ・同じモデル事業を行った別6区と交流を行う。
- ・挟間公民館の青少年リーダーを呼んで、事業を行う。
- ・由布市若者活動隊の協力を得る。
- ・由布市社会教育課に交流意向を伝え、適切な支援者の橋渡しをしてもらう。